

吉野復興大臣の福島県訪問ぶら下がり会見録
(平成29年9月30日(土) 16:27～16:33 於) 檜葉町)

1. 発言要旨

本日は、福島県の富岡町、大熊町、川内村、そしてここ檜葉町を訪問いたしました。

富岡町では、震災後復活して5年目になる「ふたばワールド2017」を視察させていただきました。オープニングセレモニーで祝辞を述べさせていただきました。

その後、展示ブースや「なみえ焼きそば」、「ならはのマミーすいとん」などを試食させていただきました。

ふたばワールド、これを機に双葉郡の皆様方の絆が一層深まることを希望するところでございます。

次に、大熊町に行ってまいりました。

長年の懸案でありました復興拠点、これを大川原地区につくこと、その起工式に出席してまいりました。復興に向けた第一歩は大川原地区で始まることに喜びを感じております。大熊町の皆様方の生活の安心が早く確保されることを願っております。

次に川内村を訪問しまして、「かわうちワイン」の葡萄畑、約3町歩、3ヘクタールあります。本当に眺めのいい山のでっぺんであり、昔は牧草地で、今は茅が生い茂っているところを草を刈って、そして石を掘り起こして開墾して、みんな大きな石は重機で取ったそうですけれども、抱えられる石はみんな人力で石を拾って、いわゆる昔の開墾の苦労を皆さん味わった、そんなお話をしてまいりました。

また、2020年の東京オリンピック・パラリンピックを目指したワインの出荷についてお話を伺ったところです。

最後にここ檜葉町を訪れました。

ここアンフィニ(株)福島工場では、太陽光パネルの生産を今すばらしい施設でつくっておられるところを見てまいりました。

社長さんのお話によれば、太陽光を売るにはライバルがたくさんおります。ブランドをつくらなきゃならない、そのブランドは福島県の人がつくったんだというものを売りに、いわゆるブランドとして売り込みたいというお話、「人」が我が社の売りなんだというお話を伺って、雇用の問題、そしてすばらしい生産工場の環境、社長さんに感謝申し上げると同時に、アンフィニさんのますますのご発展、これをお祈りするところです。

以上です。

2. 質疑応答

(問) ここ、アンフィニは震災後、進出した企業ということで、地元の雇用拡大、それと福島県が掲げている再生可能エネルギーのシンボリックな役割を果たすかと思うんですけれども、もう少し工場に対しての評価をお聞かせ下さい。

(答) 皆さんもちょっと見学なさればわかると思いますけれども、本当に広くて清潔で、従業員の皆様方に、こんなにすばらしい環境でお仕事ができることいいね、うらやましいねと。

実は私、製材工場をやっていたものですから、製材工場はうるさくて、埃が出て、汗まみれになって働く環境でございましたので、それと比較すると、本当に働く職場として、職場の環境として、すばらしい環境を会社は提供してくれている。

そして将来、もっと雇用をふやしていきたい、そんなお話も伺いました。

(問) 政務の話で恐縮なんですけれども、ここ数日、希望の党と民進党の合流に向けた動きということで、ちょっとどたばたしているかと思うんですが、大臣、今回の動きをどのように評価なさっていますか。

(答) テレビのチャンネルをつければ、全て小池東京都知事の映像が流れておりますので、今度の選挙は全くの逆風の中での選挙だと、私はこう位置付けて、選対の幹部の皆様方にお話ししております。

厳しい戦いになると思いますけれども、必ず勝利していきたい、このように考えています。

(問) 希望の党に対する大臣の評価はどのように見ていらっしゃるんですか。

(答) 相手の党の評価はしても仕方がないので、ただ、この逆風について、どうピンチをチャンスにしていくか。

例えばヨットは、風上に帆の角度をやると風上に進んでいけるんです。だから暴風が吹いても、きちんとその風をうまく自分の勝利のエネルギーにどう変えられるか、ここが私の選挙にとっては勝負のところかな、こんな思いです。

逆風であってもヨットは風上に向かって進める。

(以 上)